

## マツノキハバチ

春にマツの葉を集団で食べるイモムシ（幼虫）。最大長約20mm。体は暗い灰色で白や黒の縦縞が数本ある。小さなときは全体的に灰色から緑色。いずれの場合も頭は黒い。

庭などのマツでまれながら多発することがある。



1. 幼虫，終齡，1993/7/2. 美唄市，アカマツ。



2. 雌成虫。1を含む集団を飼育。



3. 雄成虫。1を含む集団を飼育。

【学名】 *Neodiprion sertifera*

【分類】 ハチ亜目 (Hymenoptera) , ハバチ亜目 (Symphyta)

【分布】 北海道，本州，九州；朝鮮半島，ヨーロッパ，北米。

### 【生態】

宿主：マツ属（アカマツ，クロマツ，ハイマツなど）。

葉内で卵で越冬。幼虫は早春孵化し，集団で葉を食べる。6月には落葉中や土の浅いところに潜って繭になる（写真の幼虫は7月に発生したが，1993年は異常な冷夏のため発生が遅れたと考えられる）。その中で秋に蛹になり，10月に成虫が羽化する。

雌成虫は針葉内に卵を一行に並べて埋め込む。

### 【被害と防除】

庭のマツなどでまれに多発する。道内の森林では屈斜路湖近くの硫黄山にある低地のハイマツで多発した例がある。

春に幼虫集団をみつけたら取り除く。農薬による駆除が必要と判断される場合、マツ類のハバチ用の農薬としてMEP乳剤がある。農薬は取扱説明書に従って使用し、散布にあたっては通行人や近くの住民らに十分配慮すること。

#### 【文献】

1994. 滝沢幸雄. マツノキハバチ. 小林富士雄, 竹谷昭彦, 編集. 森林昆虫, 総論・各論: 335-336. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

マツノキハバチ habahoka/matunoki/  
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/23.

yochu1.JPG, seichu1.JPG, seichu2.JPG

「写真1～3」鈴木重孝, 北海道立林業試験場, 1993.